

問二 傍線部(ア)～(ウ)の語句の、本文中における意味の説明として最も適当なものを、次の各群の

①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び、番号で答えよ。

(ア) 鞭打ち続けた

- ① いじめ続けた  
 ② 傷つけ続けた  
 ③ 励まし続けた  
 ④ 緊張させ続けた  
 ⑤ 抑え続けた

(イ) したたかに

- ① いきなり  
 ② つよく  
 ③ まともに  
 ④ あつかましく  
 ⑤ わずかに

(ウ) 露呈する

- ① みずから認める  
 ② あらわにさらけ出す  
 ③ 大げさに表す  
 ④ はつきりと見出す  
 ⑤ いっそう助長する

(ア)

(イ)

(ウ)

問三 傍線部①「それがショパンの協奏曲の旋律だということに、僕はなかなか気がつかなかっ

た。」とあるが、この表現から「僕」のどのような心理が読み取れるか。最も適当なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えよ。

① 千枝子は千枝子だと考え、その婚約をそのまま受け入れようとしているが、心の底では

【典型問題】

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

さて冬枯の<sup>(1)</sup>気色<sup>①</sup>こそ秋にはをさをさおとるまじけれ。汀の草に紅葉の散りとどまりて、霜いと白う置ける朝、<sup>(2)</sup>遣水より煙の立つこそをかしけれ。年の暮れはてて、人ごとに急ぎあへる比<sup>(2)</sup>ぞ、またなくあはれなる。すさまじきものにして見る人もなき月の、寒けく澄める廿日あまりの空こそ、心ほそきものなれ。御仏名・荷前の使たつなどぞ、あはれにやんごとなき。公事どもしげく、春のいそぎにとりかさねて催しおこなはるさま<sup>(3)</sup>ぞいみじきや。<sup>(3)</sup>追儼より四方<sup>(3)</sup>拜につづくこそ面白けれ。つごもりの夜、いたう暗きに、松どもともして、夜半過ぐるまで人の門たたき、走りありきて、何事に<sup>(4)</sup>かあらん、ことごとしく<sup>(b)</sup>ののしりて、<sup>(c)</sup>足を空に惑ふが、暁がたより、さすがに音なくなりぬるこそ、年の名残も心ほそけれ。なき人の来る夜とて魂まつるわざは、この比都にはなきを、東のかたには、なほする事にてありし<sup>(5)</sup>こそあはれなりしか。かくて明けゆく空の気色、昨日に変わりたりとは見え<sup>(甲)</sup>ねど、<sup>(d)</sup>ひきかへめづらしき心地ぞする。<sup>(4)</sup>大路のさま、<sup>(v)</sup>松立てわたしてはなやかにうれしげなるこそ、またあはれなれ。

〔徒然草〕

【出典】

『徒然草』〈十九段〉

【重要古語】

- 気色
- をさをさ
- いと
- 遣水
- をかし
- あはれなり
- すさまじ
- やんごとなし
- いそぎ
- おこなふ
- いみじ
- 追儼
- おもしろし
- つごもり
- いたし
- ありく
- ことごとし
- ののしる
- さすがに
- わざ
- なほ
- めづらし

問一 傍線部(1)～(4)の漢字の読みを、ひらがな・現代かなづかいで記せ。

(1)				
(2)				
(3)				
(4)				

問二 傍線部 a～d の語句の意味として最適のものを次の中より選び、それぞれ符号で答えよ。

a 春のいそぎ

- ア 春を迎える気ぜわしさ
- イ 春を迎える喜ばしい気分
- ウ 新年を迎えるための準備
- エ 新年を迎えるための心構え
- オ 新年を迎えるための繁雑さ

b ののしりて

- ア 大声で罵倒ばとうして
- イ 騒さわぎたてて
- ウ 異常を察知して
- エ 口論を続けて
- オ 祝福の言葉を述べて